

議 事 要 旨

【日 時】 令和7年10月28日(火)18:00 ～ 19:04

【場 所】 TV 会議(佐世保市中央保健福祉センター5階 危機管理室)

【出席者】 委員5名(2名欠席)

〈事務局〉岡部長、早田所長、八木次長、八木課長補佐、守主査

〈北松中央病院〉東山理事長兼院長、富本事務部長、前田看護部長

◆評価委員会各委員の主な意見・質疑

■議題1 北松中央病院第7期中期目標の期間の終了時の検討について

【意見】

北松中央病院の業務継続等の必要性を確認した上で、検討内容・結果に対して意見はなし。

【質疑等】○質問 ●回答

病床利用率について【古賀委員】

○18ページで、総合医療センターと比較して病床利用率がR5年度から49%から59%と10%伸びているが、何か特に要因があるか？

●R5年度はまだコロナの影響があって少し制限していたところがある。通常運転になって徐々に増えてきて、R6年度が59%となっている。

医療従事者の確保について【西野委員】

○21ページの医療従事者の確保のところ、東山理事長が戦略的に医学生への支援をしながら今後戻ってくるお医者さんの数も増えてきているだろうと思うが、この見通しというか今後の安定性という点はいかがか。

●現在、医学生に貸している人は1名であり、昨年借りる予定だった人が国立大学に行ったので借りないとなった。今年度も残念ながら病院の経営が悪いので、私立大学医学部の学費が出せないと思っている(貸付制度)。結局、今、医学生に供用開始しても10年先にやっとなんかという状況なので、今後、どこまで拡充するかはちょっとわからない。ただ、その代わりに薬剤師とか看護師に奨学金を出して、今のところほぼ受けてくるという感じである。(東山理事長)

■議題2 北松中央病院第8期中期目標の策定について

【意見】

北松中央病院第8期中期目標(案)の修正等が必要となるような意見はなし。

【質疑等】○質問 ●回答

実情を踏まえた目標の設定について【西野委員】

○この目標は誰がどう考えても立てられるような目標で、全国や離島においてはこの目標を設定するのが難しい状況にあると思っていて、なので、よく東山先生から実情をしっかりと話を聞かれて、市としてどういう協力ができるかということをもう少し書かないと。一番最初の部分の「高齢化による医療脆弱性」「北松近辺との連携」と書いているが、この北松近辺の医療従事者の高齢化や人材は減ってきていると思うので、この辺のところは現実的には難しいことがずっと書いてあるだけじゃないかと思ったがいかがか。

●確かに、建て替えるかとかあったが、現実的には建て替えはすごくお金がかかる。デジタル化の推進については、医療というのは看護師さんの定員とか医師の点数とかがあって、デジタル化を進めたから人件費を削減できるかというとなかなか難しい。ただ、今後、国が電子カルテを共通化して、デジタル会社からの情報の吐き出し形式が決まれば当然それに対応していくべきだとは思っているが、なかなか現在赤字の状況で、積極的にICTにお金を投じるとなると、一過性にお金がかかればいいが、それにメンテナンスフィーとか更新時期がかかって、ずっとお金がかかっていく。これは電子カルテを入れた医療機関全部そういう状況であるが、そういうところにお金を本当に使っていくかというのも、将来にわたっての計画で、あと3年ではなかなかはっきりとはしてこないとは思っている。

(東山理事長)

●我々としても、何か、今より多くを求めているというものではないので、まずご了解いただきたいと思う。

先程から申した通り、佐世保の北部地区はもとより、県北について非常に重要な役割を持った基幹病院と認識しているところであり、ちょっと言い方が失礼だが、北松中央病院がこけると佐世保北部地区がこけてしまうような状況があるので、何とか今を維持していただきたいという思いの中での目標となっているものであり、その中で国の動向とかもあるので、そういったところも踏まえながら、国から求められるDXの推進であったりということも、中期目標の項目の1つとさせていただいているという状況である。

今、機能として持たれているところを何とか頑張っていたきながら実施をしていただきたいという思いでの目標となっているものである。(事務局八木次長)

○松浦市民病院に2年半勤務した経験もあるので、いかにこの北松中央病院や県北の医療を担っている病院が大事かというのを理解しているが、一方で、やはりその長崎に残る医者の数であったりとか医局による配置という点からいうと、やはり離島僻地の部分への医師の数であったり、或いは今、コロナの後、看護師さんがかなり減ってくることで病床を維持できないとか、そういう話もあちこちで出てきているので、その点については、今を維持することもなかなか厳しい状況にあるので、ぜひ、北松中央病院を中心として、県北は頑張っていたかかないと私も困るなというふうに思っておりますし、私は腎臓ですが、引き続き、北松中央病院にはしっかりと力を注いでいきたいと思っているところである。

●非常に厳しい状況で、特に先生の大学病院もマスコミの方にも大きく取り上げられたりしておりますし、公立病院に至っては8割強が赤字と非常に厳しいような状況もあり、高市新首相もR8年度の診療報酬まで待てないといったようなところで、何か打ち出していただけるといいんじゃないかという、ちょっと期待感も膨らんでいるところではあるが、そういったところを注視しながら、何とか病院経営を持ち直していきたいというふうに思っているところである。

(事務局八木次長)

デジタル技術とICTについて【橋本委員長】

○①資料5の4ページ、DXの推進というところで「デジタル技術を積極的に活用し」という記載があり、5ページの働き方改革の推進というところで「タスクシフトやタスクシェアの推進やICTの活用などにより」と書かれているが、デジタル技術とICT活用というのは、それぞれを区別して考える必要があるのか。

デジタル技術といわれるものと、ICTと呼ばれるものは想定されるものが違うという理解でいいか。

②資料5の4ページ、「2経営管理人材の育成」というところで、「経営管理に携わる職員の専門的な知識努力向上を図るため、計画的な教育研修の充実、充実に努め」というところで、具体的にどのような取り組みが想定される目標であるのかについてご説明をいただきたい。

●①デジタル技術の積極的な活用については、先程ご説明したとおり、国において進められているデジタル化に伴って病院全体のデジタル化を進めていただきたいということで区別して記載している。

後半のICTの活用のところについては、働き方改革の中において、例えば事務手続きとかそういったものについても細かいところで活用していくということで区別して記載している。（事務局 守）

②経営管理人材については、今も事務部門の専門性の向上ということで色々努められてはいるが、例えば階層別の研修とか外部の研修というものも積極的に活用しながら、人材の育成に努めていただきたいということで記載している。それによって、質の高い人材を育成し、経営に携わる人材の質の向上を図っていただきたいと考えているところである。（事務局 守）

看護師の確保について【古賀委員】

○看護人材の充足率が90%ぐらいで他の職種の方にと比べると比較的低かったような記憶があるが、やっぱりよその医療機関も人材確保に苦労されているようで、どういうことされているかをよく聞いてみるが、1度離職した人を集めたりするのに、時間を午前・午後とかそういう細かい配慮をして、できるだけ職場に戻ってこれるようにというか仕事ができるような形の工夫をされているようだが、そういうことを進めていかれたらどうかという気がする。

最低賃金も今からどんどん上がっていくようですし、改築しようにもどんどん資材が上がっていくので、人件費の工夫を今後とも細かくしていただいて、DXももちろんだが人的な工夫も進めていかれたらどうかという気がする。そこら辺があんまり盛り込まれてないというか話にあまり出てこないの、ちょっと気になったので、一応、意見を言わせていただく。

●今、委員がおっしゃられた通り、看護師確保については、北松中央病院のみならず困っている状況にある。

実は、昨年末に市内の医療機関にアンケートをとらせていただいた。その状況を申し上げますと、病院・診療所をあわせると佐世保市内で120数名不足しているという結果があった。そういった中で、本市も、修学資金貸与支援事業ということで、二次救急病院の10病院に限ってはありますが、一定、看護師確保策のための一部支援をさせていたきており、少しずつではあるが、看護師確保の人数も増えてきているというような状況がある。

しかしながら、昨年度末で医師会の看護専門学校も閉校になったというような状況があり、そもそも看護師を供給する体制が縮小している状況もある。

そういった中で、いかにアンケート調査を踏まえて看護師をどう確保していくかということについて、本市も新たな取組を検討させていただいている状況である。

委員の方からもあったように、一定、職に就いておられない看護師さんとかいったところを掘り起こしつつ、看護師を増やしていくといったところも、別のところからもそういったご意見もいただいており、まさにそこに取り組む必要もあるのかなと今感じたところであるので、検討の1つとさせていただけたらと思っている。（事務局八木次長）